ご卒業おめでとう

作新学院歌

作詞　石濱恒夫
作曲　外山雄三

一、光り満ちたり涯しなき
知恵の流れにいそしみて
はぐくむつばさひたすらに
若きこころのあこがれや
作新の風吹きおこる
われらが愛の学院に

二、望み溢るるたゆみなき
月日の野辺に花摘みて
久遠の窓を指させば
若きいのちの夢多し
作新の風吹くところ
われらが愛の学院に

三、東西の星限りなく
連なる嶺やここかしこ
道なき道も手を組みて
若きちからのすすむなる
作新の風吹きそよぐ
われらが愛の学院に

作新学院新聞

発行所
宇都宮市一の沢1-1-41
作新学院
編集
卒業号編集委員会
印刷所
株式会社宮本印刷

平成二十六年度作新学院卒業式日程

▽三月一日(日)高等学校(総合体育館)
▽三月十日(火)中等部(小・中体育館)
▽三月十三日(金)小学部(小・中体育館)
▽三月十五日(日)幼稚園(プレイルーム)

大震災を乗り越えて

学院長　船田元

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今回の作新学院新聞は通算で二百二号になります。昭和二十四年の新学制による高校スタートから六十六年、年に三回発刊してきましたから、ほぼこの数字になります。作新学院は今年で百三十周年を迎えますが、新聞もやはり一つの節目を迎えました。

高校の卒業生は平成八年生まれが多いと思いますが、その一年前に阪神淡路大震災が発生し、六千人を超える方々がなくなるという、大惨事になりました。そして皆さんが中学三年生になる直前、東日本大震災が発生し、いまだに被災地の復興が遅れています。皆さんはまさに震災とともに生まれ育ってきた世代といってもいいでしょう。

皆さんは中学でも高校でも、様々なボランティア活動に参加していただきました。学院としても街頭募金活動はもとより、「メッセージぞうきん」一万枚を作成して被災地に送ったり、窓拭き隊として仮設住宅の掃除を手伝ったり、被災地の学校との交流もやってまいりました。

昨年は新たに広島の大規模な土砂崩れや、木曽御嶽山噴火によって、多くの犠牲者が発生しており、まさに「災害列島」と言っても過言ではありません。皆さんはこれらの活動に主体的に参加することによって、被災地の皆さんに思いを馳せ、悲しみや苦しみの一部でも共有出来たのではないでしょうか。卒業後もこのような気持ちを忘れずに、さらなるボランティア活動に積極参加してください。

一方皆さんの在学中には、社会の変化も激しく、特に科学技術の分野では大きな進化がありました。ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授のｉｐｓ細胞は、万能細胞として再生医療での応用に使われはじめました。小惑星探査機「はやぶさ」は困難を極めたイトカワからの帰還に見事成功し、貴重なサンプルを持ち帰りました。その後ＪＡＸＡは「はやぶさ2」を打ち上げ、ＮＡＳＡは火星への有人飛行の準備を進めています。

このように皆さんの周りには、世の中をプラスに持って行こうという動きと、マイナスになってしまったけれども、なんとか挽回して行こうという動きが交錯しています。卒業生の皆さんには、その両方の分野で今後中心的な役割を担ってもらいたいと、切に望んでおります。

皆さんは作新学院に在学中、文武両道にいそしみ、人を思いやり、人を動かすという「人間力」を養ってくれました。この力を惜しみなく発揮していただければ、そのことは十分に可能だと確信します。14循環作新学院も、常に新しくすることを実践し、より強い人間力を蓄えて参りたいと思います。

卒業生の皆さんの、今後の大活躍を、心から期待しています。

世界をつくる君たちへ

理事長　船田恵

卒業を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ここまで成長を支えて来られた保護者の皆様方にも、心からお慶び申し上げます。

今、悲惨なテロ事件が世界を不安に陥れています。

テロの脅威に、決して屈しない―その決意とともに、命を絶たれた方の尊い犠牲と、ご家族の悲しみに報いるため私たちには今、「しなければならない事」と「してはならない事」があると思います。

まず、「しなければならない事」。一つ目は、「世界を知る」ということです。

民族や宗教が異なる様々な人々が共に暮らしているこの地球上で、現在起きている事実、過去に起きてきた事実を、できるだけ偏りのないよう、より広くより多く知るということです。

数々のテロ事件の背景には、そうした結果に至るまでの経過や原因が必ず存在します。私たちはその事実を知り、原因の根絶に努めねばなりません。

知らない事、知ろうとしない事―

無関心も、暴力と同様に大きな「罪」であることを忘れてはなりません。

しなければならない事。その二つ目は「多様性を尊重する」こと、簡単に言ってしまえば、「互いの違いを認める」ことです。

年明けにフランスの週刊紙社が襲撃され、13名もの死者が出ました。事件を受けて同紙は、テロリストの暴力に屈することなく表現の自由を守り抜く意思表明として、イスラム教の預言者ムハンマドの風刺画を掲載しました。

一方イスラム教では、ムハンマドの姿を描くことは固く禁じられており、風刺画掲載はテロリストとは無関係のイスラム教徒の心を踏みにじり、尊厳を傷つけることになりました。欧州では、イスラム教の人々への嫌がらせや排斥運動が激化し、社会が分断されつつあります。

相手の立場に立って物事を考え、人の痛みを感じること。

平和で豊かな世界をつくって行く上で、それは何より大切なことです。

次に、してはならない事。

「憎しみや恐怖に心を支配されない」ということです。

憎悪や恐怖は、不信と暴力的衝動を掻き立て、やがて人々を戦争へと駆り立てます。憎悪と報復の連鎖は、絶対に断ち切らねばなりません。

皆さん方一人ひとりの夢は、平和な社会と美しい地球環境が保たれてこそ実現します。

あなたの一歩、あなたの一言が明日の世界をつくるということを、どうか忘れないでください。

eco・プロジェクト「多用な知性・技術・個性を結集」

ー チーム・テレサ　チーム・ガリレオ　チーム・コロンブス ー

eco（ボランティア系）チーム・テレサ

ボランティアを通じ、人のために役立つ喜びを経験する活動

未来を創る「森」づくり

環境保全に取り組むことで未来の地球を創る意識を育てようと現在、「一人一本苗木育成」「作新の森での植樹」「足尾での植樹」の、「森」づくり活動を行っている。

地球環境クラブの結成と研修活動

環境に関する活動や国際交流などに関心の高い子どもたちで結成され、各部で積極的な活動が行われている。

ペットボトルキャップ ポリオワクチンに

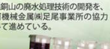
平成20年から全校をあげてペットボトルキャップ回収運動を展開している。現在までに約５００万個を回収した。

eco（実験発明系）チーム・ガリレオ

科学技術によって破壊された環境を、科学技術によって蘇らせ保護してゆく活動

鉱山廃水 クリーンプロジェクト

足尾銅山の廃水処理技術の開発を、古河機械金属㈱足尾事業所の協力を得て進めている。

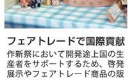


ｅｃｏ発電プロジェクト

自然環境を考慮した再生可能エネルギーによる風力発電機や水力発電機の研究・製作を行っている。

eco（国際交流系）チーム・コロンブス

国境を越え、世界の子どもたちとともに地球環境保護に取り組んでゆく活動



フェアトレードで国際貢献

作新祭において開発途上国の生産者をサポートするため、啓発展示やフェアトレード商品の販売を行った。

女子教育支援に向けての タンザニア事前研修

「タンザニアってどんな国？～Karibu! Tanzania～」と題して勉強会を実施。

アフリカ一万足プロジェクト

アフリカの靴のない子どもたちを救うため「１万足の靴」を目標に、現在回収活動を行っている。

「作新民。」その“人間力”で、世界を変える、未来をつくる！

作新学院は、今年創立130周年を迎えます。

長い歴史を通し、作新が一貫して育んできたもの、それが「人間力」です。

「創造力」「国際力」「コミュニケーション力」「社会貢献力」「あきらめない力」という5つの力を結集し、「文武両道プラス、ボランティア」という三本柱で私たち「作新民」は明日の世界を切り拓いてゆきます。

S・S・H（スーパー・サイエンス・ハイスクール）

作新学院のＳＳＨプログラムでは、大学や専門機関の協力のもと、特に、環境と国際交流に重点を置いた先進的理数系教育を展開している。

「環境・国際交流」　キーワードへの五つのアプローチ

興味・関心／分析力／思考力・判断力／コミュニケーション能力／国際力

【先端科学講座】

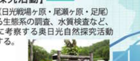
最先端の科学研究を行っている先生を招いて「出張講義」を行っている。科学への興味・関心を高めるとともに、科学の楽しさを味わう。

【先端科学体験】

宇都宮大学・帝京大学の研究室を訪れる「サイエンスキャンプ」や、つくば学園都市の研究所などへ出かける「サイエンスツアー」により、科学実験を体験する。

【自然探究活動】

奥日光（日光戦場ヶ原・尾瀬ヶ原・足尾）における生態系の調査、水質検査など、科学的に考察する奥日光自然探究活動を実施する。



【ＳＳ情報科学分析】

理科の授業で得られた実験データを、コンピュータを利用して、分析・整理・考察する方法を学ぶ。最終的に、プレゼンテーションソフトを使って分析結果を発表する。

【ＳＳ科学研究Ⅰ】

２年生の理系クラスの希望者を対象に実施している。宇都宮大学の先生からアドバイスをいただきながら、課題研究に取り組むことで科学的な思考力、発想力、探究力を養う。

【ＳＳリテラシー】

数学・英語・国語・地歴・公民科と協力し、科学的なテーマ学習を横断的に展開し、論理的思考力や判断力を育成する。

【発展数学講座】

数学Ⅱ・Ⅲで微分・積分の理論と応用を学び、物理・化学とのつながりや、高校と大学との接続した内容を取り上げる。

【ＳＳＨ台湾海外研修】

台湾の高校生との科学交流や研修を通じて、国際性と英語でのコミュニケーション能力を高める。

【ＳＳＨ研究発表会】

科学部でのＳＳＨ活動の研究成果などを、全国大会に参加して発表する。

【ＳＳＨ科学英語講座】

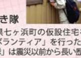
科学英語の読解や外国人研究者と英語のみで実験を行う。

東日本大震災救援活動

被災地に対し、平成23年から行っている“オール作新”による活動

メッセージぞうきん

被災地の仮設住宅で暮らす方々を、少しでも励ましたいという思いでメッセージ雑巾を作成。その数 5,747 枚。



窓ふき隊

宮城県七ヶ浜町の仮設住宅を訪れ「窓ふきボランティア」を行った。この「窓ふき隊」は震災以前から長い歴史を持つ。

「復興支援プロジェクト」

ひまわりプロジェクト

生徒の手で育てられたひまわりの苗を、宮城県名取市の仮設住宅へ届けている。

「作新の森」への植樹

気仙沼市に「海辺の森」活動の一環として「作新の森」に植樹を行った。

ドリーム・キャンパス・プロジェクト

「作新学院が新しく変わります」

創立130周年を記念して、作新学院が新しく変わります。幼稚園跡地と東館跡地に、私たちの学院生活を充実させる施設を作ります。

現在、東館を解体中です。今までたくさんの先輩方や生徒たちが学んだ校舎が、みるみる崩されていきます。重機オペレーターの腕に感心するとともに、一抹の寂しさを感じています。きれいに整地された後には、みんなの笑顔がはじけるような施設が誕生することでしょう。

また、作新のマスコットキャラクター「さくしろう」グッズも、私たちを笑顔にしてくれます。創立記念日には、「さくしろう」のクリアファイルが園児・児童・生徒全員に配られました。また、各設置校、各学科「さくしろう」の他に、部活動「さくしろう」も、日々増えているようです。

新しい制服も楽しみです。県内各校の制服の常識を破ったキャメルカラーの制服。４月には、入学試験に合格した新１年生が入学してきます。３年生が卒業し、少し寂しくなったキャンパスが、明るい色に染まるのでしょう。

作新学院 キャンパスマップ

作新学院 マスコットキャラクター「さくしろう」
永井佑樹さん（卒業生）の作品

生徒たちの活躍

部活動やコンテストで掴んだ数々の栄光

「世界で日本で輝く」

水泳部（競泳）　薄井 結花

水泳部（飛込）　榎本 遼香

硬式野球部

パワーリフティング部　花田 結衣

柔道部　伊澤 星花

ゲートボール部

弓道部（女子）（左）伏見 梨紗　（右）西崎 寧々

弓道部（男子）　中山 知典

書道部　高橋 桃菜

［陸上部］齋藤　勇太：国民体育大会 陸上三段跳３位　［美術部］五十嵐　睦：全国きものデザインコンクール 京都府知事賞
［美術部］萩原穂乃香：栃木県芸術祭美術展 芸術祭賞　［美術部］松澤　康花：読書感想画中央コンクール 大和証券賞

卒業生の言葉　中等部

「NEVER GIVE UP の精神を糧に」

生徒会長　川端潤之介

スキー合宿

足尾植樹

ハロウィンパーティー

三年前、少し丈が長いくらいの真新しい制服に身を包み、入学したことが昨日の事のように思い出されます。私たちはこの中等部で多くの人に出会い、成長してきました。その日々はとても濃密で、そしてあっという間に過ぎ去ろうとしています。

東日本大震災の被災地を訪問した研修旅行では、現地の中学生との交流を通して、今自分にできることは何かを考える機会となりました。

修学旅行では、原爆の惨禍と恒久平和への思いを広島で感じとり、阪神淡路大震災から十九年経った神戸では、震災から立ち上がる人々の底力を実感しました。

また、運動会や合唱コンクール、長距離走大会など、多くの行事で培った様々な絆。全ての日々が私たちの心をより成長させてくれました。

いま最高学年となり、進路選択の不安で眠れない思いもしました。しかし三年前の入学式で誓った「NEVER GIVE UP」の精神で最後まで考えぬきました。ここまで諦めずにこられたのも、多くの支えがあったからなのだと改めて感じています。

最後になりましたが、三年間、私たちをご指導くださいました諸先生方、本当にありがとうございました。今後は先生方の教えを守り、様々な方面で作新の風を起こせるような立派な大人になることをここに誓います。

運動会

科学の甲子園出場

かるた大会

卒業生の言葉　高等学校

「思い出を胸に歩んで行きます」

生徒会長　英進部　野口 大輔

修学旅行

球技大会

合唱コンクール

心躍らせながら作新学院の正門をくぐった入学の日から早くも三年が経とうとしています。卒業という「別れ」を迎えた今、私たちは戸惑いを隠しきれません。

顧みると作新学院で様々な思い出を作りました。心を一つにした体育祭や、皆で意見を出し合い、作り上げた文化祭。そして様々なボランティア活動の中でも強く印象に残っているのは、東日本大震災の被災地の方々に「手作りメッセージぞうきん」を贈る運動です。私たちはそれぞれの思いを込め、目標を上回る五千枚以上のぞうきんが集まったのは「一校一家」の校風の下、皆の気持ちが一致団結したからだと思います。

また、高校生活を通して、友達という存在の大きさを改めて感じました。毎日当たり前のように話し、共に切磋琢磨する仲間を得たことを、とても幸せに思います。

本当に三年間は早いものです。タイムマシンがあったら、入学時に戻り、もう一度高校生活を送りたいくらいです。しかし、それぞれの目標を達成するために、一歩踏み出さなければなりません。これからの人生で壁にぶつかった時に、高校時代の経験がきっと私たちを支えてくれるはずです。

最後になりましたが、院長先生、理事長先生、諸先生方大変お世話になり、ありがとうございました。創立百三十周年を迎える作新学院の更なるご発展をお祈りして、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

美術デザイン科卒業制作展

自動車科授業風景

クリスマス音楽会

保護者の言葉　幼稚園

「子の背を見て親も育つ」

保護者　大野 尚之 様

県交通安全イベント

田植え

宮っ子パレード

初めての集団生活の幼稚園。こども達は新たな環境に不安を覚えたに違いない。そして「早く家に帰りたい。」「早く家族に会いたい。」そんな不安な時を送っていたのではないかと思う。

しかし3年の月日がたった現在はどうだろう。こども達は幼稚園にいる事が何より楽しく、貴重な時間なのだ。こども達は先生方に見守られ、沢山の友達を作り、自分が楽しく過ごせる場所を見つけたのだと思う。

保護者も同様に「ちゃんと登園できるだろうか？」「友達と仲良くやっているだろうか？」と様々な心配をしていた方も多かったと思う。しかしこども達は親の心配をよそに、幼児から子供へと成長していったように見える。保護者も当初の心配はなくなり、日々こども達を幼稚園に送り出しているのではないだろうか。こども達が幼稚園に安心して行けるのは友達と先生の存在があるからで、親が安心して送り出せるのは、こどもの少し頼もしい後姿があるからだと思う。「子の背を見て親も育つ」とでもいうか、小さいけれど大きなこどもの背中に「大丈夫心配いらないよ。」と教えられ、無用な心配をしている自分に気づかされることもあった。そんなこども達の安心感の源は先生方の微に入り細を穿ったご指導に他ならないと思っている。今までお世話になった先生方に改めてお礼を申し上げるとともに作新学院幼稚園の益々のご発展と先生方の益々のご活躍をお祈り致します。

もちつき

出初式

パン屋さんごっこ

卒業生の言葉　小学部

「一校一家の心を学んだ六年間」

児童会長　鈴木こころ

修学旅行

異文化体験学習

盆踊り大会

大きなランドセルを背負い、白い門をくぐったあの日。楽しい一日はいつも、白い門から始まっていました。

一年生のころ、私は心の中に不安と、親とはなれる心細さがありました。しかし、毎朝教室で紙しばいを読んだり、折り紙を折ったりして遊んでくれた優しいお兄さんやお姉さんのおかげで、学校が大好きになりました。それが今では、私が一年生をお世話するようになり、もう六年が経つということを、とても実感するようになりました。

また、この六年間で私は、たくさんのことを学びました。六年生になると運動会では、応援合戦の企画を全て自分たちで決めなくてはいけません。曲を決めたりふり付けを考えたりと、たくさんのことを決めるので、意見がくいちがうことは一度や二度ではありませんでした。しかし、この経験があったからこそ、さらに友情を深めることができたし、リーダーとしての責任感も学ぶことができました。

大きく感じたランドセルも、今では小さく感じます。そして私たちはもうすぐ、小学部を卒業します。今まで六年間、優しくていねいに指導してくださった先生方、仲良く遊んだ友達、そして今までずっと支えてくれた家族に心から感謝します。ありがとうございました。この六年間で学んだことを活かしながら、中学校でもさまざま取り組みに挑戦してまいります。

運動会

長距離走大会

クリスマス礼拝